

2025年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
一人一人に基礎的・基本的な「できる学力」の定着を図るために、児童の実態に応じて指導内容や方法、計画を常に見直し、繰り返し学習を通して、教材・教具の工夫を図った授業を実施する。そして、「わかる学力」の定着を図るために、主体的・対話的な学習を通して、読み解く力を柱に課題の解決に必要な思考力・判断力・表現力を育成する。重点的に取り組みたい資質・能力は「様々な情報を整理し、自分の考えを根拠や理由に基づいて表現し、問題を解決する力」であり、3つに整理して育成を図る。 ①学んだことを生かして、問題を解決しようとする態度(学びに向かう力・人間性等) ②情報を理解し、整理することができる力(知識・技能) ③根拠を基に自分の考えを表現する力(思考力・判断力・表現力)

授業改善の重点
「問題解決力」(様々な情報を整理し、自分の考えを表現し、問題を解決する力)を育てるために、以下の3つ視点から授業改善・授業実践に取り組む。 ①対話を生かし、読みを深める国語科を柱に、自分の考えを整理する活動を教科横断的に実践する。 ②基礎的な言語能力を培うことができるよう言語活動を充実させ、根拠を基に自分の考えを表現させる活動を実践する。 ③学んだことを生かして、問題(課題)を解決する学習や体験を充実させる。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	○全ての学習の基盤となる言語能力を支えるために、語彙を豊かにする指導の改善と充実を図る。 ○話す・聞く・読む・書く活動をバランス良く行う。また文章の的確に理解した上で情報の整理を行い、自分の考えの形成に生かしていくよう指導する。 ○対話を通して自分の考えを広げ深める活動については、ICTの活用を図る。	○導入時のリズム運動や、発声や今月ごとに変わる歌唱を繰り返し行うことで基礎技能の定着を図る。さらに中学校での学習への見通しをもち、表現活動の積み重ねを図る。 ○鑑賞の授業で思いや意図を言葉で表現し、共有する活動を行う。 ○歌詞の意味を理解させたり、物語のイメージをもち、表現に生かす指導をする。 ○我が国や郷土の音楽に親しみ、良さを味わえるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る。	○諸感覚を駆使する体験活動を充実させる。また、体験したことを記録したり、表現したりする言語活動を通して、根拠を基に論理的に表現できるように指導する。 ○単元に応じて、グループ編成等を行い、協働的な学習活動が実践できるようにする。 ○学んだことを生かして、次への課題等を設定できるよう指導する。 ○単元の特徴に応じて、ICTを積極的に取り入れ、課題解決に向け情報の収集、取捨選択する能力を育てると共に、児童相互の考えを共有できるようにする。	○主として、人との関わりに関する「親切、思いやり」と「礼儀」を重点とする。 ○ロールプレイやエンカウンター等の体験型学習を取り入れる。学習したことを振り返りカードに書くことにより、自己の生き方や道徳性を高めていく。 ○学んだことを普段の生活に自分ごととして振り返る。 ○自分の考え方や感じ方を明確にするともに、グループ活動でお互いの考えを伝え合い、交流する場面を設ける。		
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動の指導の重点		
	○ICT機器を活用して資料を拡大提示するなどの工夫をし、問題意識を高める。 ○様々な資料を選択しながら活用し、必要な情報を探したり、選んだりする活動を通して、根拠を基に問題に対する自分の考えを表現できるようにする。 ○学習したことをもとに、自分の生活に関する課題や現代的な課題を示し、社会への関心を高められるようにする。	○授業のめあてや活動のポイントを明確にし、制作過程のイメージがわくように指導する。 ○題材設定を工夫し、基礎的な能力や創意工夫する能力を養う。 ○作品のよさや面白さを伝え合う活動を取り入れ、児童の造形的な見方、考え方を広げ深める。			○学級会の取り組みをより高めていけるよう、定期的に情報交換を行い、互いに助言し合う機会を設ける。 ○学級づくりや人間関係を高めるためのゲームやアクティビティを紹介し、学級で生かせるようにする。 ○児童会活動やクラブ活動は、自発的・自治的な活動が広がるようにしていく。 ○行事では児童が活躍できるような取り組みを奨励していく。	○ALTやMEPSと密に連携を図りながら、学んだことを生かして、新しい課題を解決する学習や体験、自分の考えをICTを活用してスピーチの資料を作るなど活動の充実を図る。 ○基礎的な言語能力を培うことができるよう、ゲームを取り入れたり、発表を聞きあったりして楽しく学習活動に取り組ませる。
	算数科	家庭科				
	○問題文で、分かっていること、問われていることは何かを必ず押さえ、問題の内容を的確にとらえることができるように指導する。 ○正しく演算決定させるために、数直線やテープ図を活用して量関係を把握させるように指導する。 ○今までに学習した内容を生かして考えることができるよう、既習事項の振り返りを行って新しい問題や課題を解くように指導する。 ○ICT機器を活用して対話を活性化させ、理解を深めるさせる。 ○生活の中で関係する事柄を取り上げ、学んだことを実生活でも生かせるように指導する。	○衣食住など生活の中の様々な言葉を実感を持って理解できるよう、実物を使ったり実習を行ったりして指導する。 ○自分の生活における課題を見つけるために、家庭科における見方考え方を意識し、毎回の題材終わりに「次からはどうしたいか」を振り返らせる。普段から身近な生活上の話題を提供し、具体的な解決策を見つける方法を考えたり、仮説を実践したりする活動の充実を図る。 ○調理や製作等の手順の根拠について考えたり、実践する喜びを味わったりすることができるよう、実践的・体験的活動を充実させる。調理活動については、必要に応じてICT機器を活用して、家庭へ実践の協力を求める。				
	理科	体育科				
	○ICT機器を有効活用しながら話し合い活動を行い、自他の考えを比較したり関連付けたりするなど、科学的に探究する方法を用いて考えさせるようにする。 ○予想と結果、考察、感想を使い分けて書くよう指導し、根拠を基に自分の考えを表現できるようにする。 ○生活体験や既習事項から根拠をもって自分の考えをもち、主体的に問題解決しようとする態度を養う。	○技のポイントや取り組み方を示した学習カードを使い、児童一人一人に合っためあてをもたせて学習に取り組ませる。 ○ICTを活用して自分の動きを映像で確認し、動きを改善していく。 ○いろいろな運動や動きに繰り返し取り組み、各運動の基本となる力を身に付ける。 ○全校で統一し、持久力、敏捷性を育成する取組を実施する。(長縄・短縄・持久走など)				
	生活科	外国語科(5・6年生)				
	○具体的な活動や体験を通して、比較、分類、関連付けをすることで解釈し把握する。試行、予測、工夫する中で新たな活動や行動をすることを通して、自身の生活について考え、気付きの質を高める。 ○ICT機器を活用し、見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫する等の多様な学習を充実させる。	○ALTと密に連携を図りながら、学んだことを生かして、新しい課題を解決する学習や体験、自分の考えをICTを活用してスピーチの資料を作るなど活動の充実を図る。 ○基礎的な言語能力を培うことができるよう、ゲームを取り入れたり、発表を聞きあったりして楽しく学習活動に取り組ませる。				

本校の授業改善に向けて	家庭学習の充実を図るための工夫	教育課程編成上の工夫	○幼・保・小・中の円滑な接続の視点
	1年…月曜日から金曜日まで毎日、15～20分をめやすに出している。算数・音読・文字の練習を出している。学習の進度に合わせて、学年で統一して作成している。 2年…月曜日から金曜日まで毎日、20～30分をめやすに出している。算数・音読・文字の練習を出している。学習の進度に合わせて学年で統一して作成している。 3年…月曜日から金曜日まで毎日、30分をめやすに出している。1回に出す内容としては、キュービナ(又は計算プリント)・音読・新出漢字2～3字(又は漢字小テストの練習10問を2・3回)を出している。インタビュー等準備を要する物については、期間を設けて出すこともある。週に1回、日記を書いている。 4年…ほぼ毎日、40分をめやすに出している。月～金曜日 漢字プリント、音読、算数の3つ 週末など、日記や期日ありの課題を出すこともある。 5・6年…毎日、50～60分をめやすに出している。月から金曜日～漢字練習、音読、算数(プリントもしくはキュービナ)その他として、家庭科のトライカードや社会の調べ学習を学習の進度に合わせて出している。土・日曜日～週末家庭学習として、自学ノートに1ページ分を自由に勉強してくる。どんぐり…ほぼ毎日、一人一人の発達段階に応じた国語・算数の内容を出している。保護者と連携し、つまづきに対する指導方法を共有した上で出している。 各学年…navimaを活用した家庭学習を効果的に行えるよう指導を行うと	○カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために、国語科を中心とした問題解決力育成のための年間指導計画を各学年で作成した。各学年において教科横断的に、「様々な情報を整理し、自分の考えを表現し、問題を解決する力」の育成に取り組む。 ○算数少人数指導を行う。習熟度別学習を小学3・4・5・6年が行い、個に応じた指導を展開していく。それに伴い、補充的・発展的な指導の充実を図り、自分で解決する力を身に付けさせる。 ○モジュールの時間を活用し、繰り返し学習を充実させ、基礎・基本を定着させる。 ○読書習慣を養う。 ①朝読書・校内読書週間の設定 ②教師がすすめる一冊の掲示 ③外部ボランティアの活用…「がらがらどん」による読み聞かせ、「柿の木文庫」によるお話し会	○中学校とともに、補充学習の充実を図る。 ○小中交流会実施…隔年で両校の教員が授業参観を行い、その後学力向上を中心としたテーマに沿って分科会、全体会を行い、各教科の内容(小・中学校)の共通理解と両校の課題について分析していく。 ○中学校と連携を図りながら、各教科の指導をする。 ○生活指導の共通理解を図る。 ○近隣の幼稚園、保育園の学校見学等を積極的に取り入れ、情報を共有して連携を図る。